

「中央薬局おおざの店 健康相談会」

2026年2月4日（水）に開催いたしました。

1名の方がいらっしゃり、薬剤師が相談に対応しました。
ご来局いただきありがとうございました。

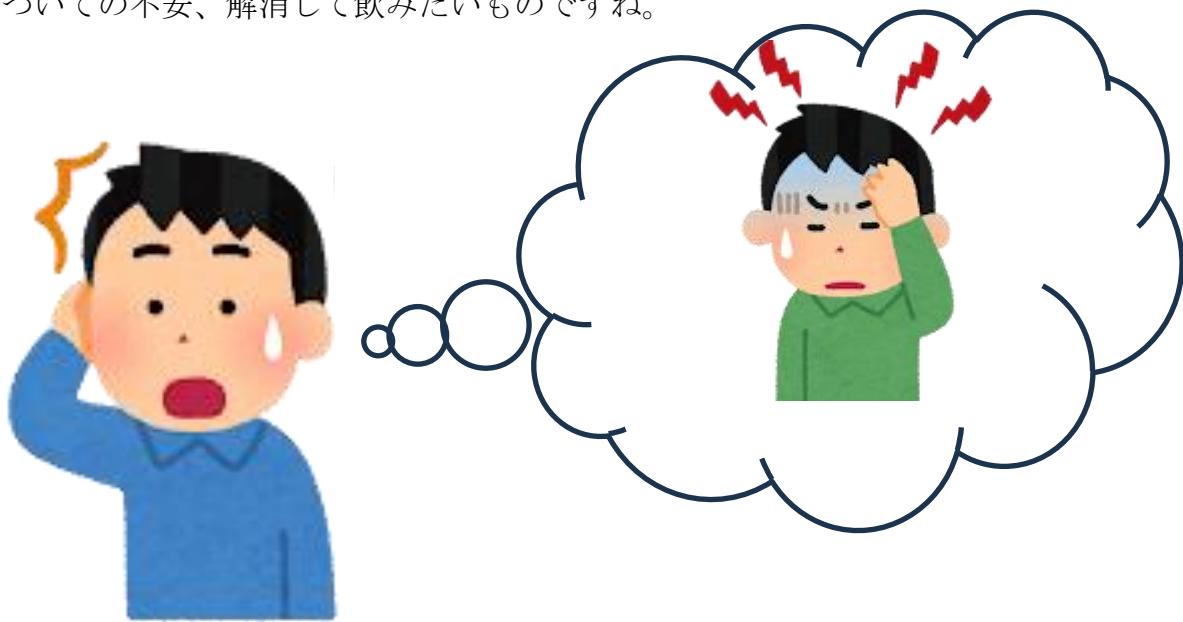
痛み止めの使い方

今回は帯状疱疹を患った患者さん。

炎症止めのお薬を続けて飲むようにと処方箋をもって来局されました。医師からは「もうしばらくまじめに薬を続けて、しっかりなおしましよう」と言わされたとのこと。しかし、不安があるご様子です。伺うと、前に頭痛でもらったお薬と同じもの。その時は医師から続けて飲むと体に負担が出るし、効果もなくなってくるから症状が出た時だけ使うようにと言われたそうです。確かに同じ薬がでています。用量もしっかり使うように処方がありました。

一般的に言われる痛み止めは、鎮痛消炎剤に部類され、痛み止めにも炎症止めにも使用していきます。頭痛や骨折のほか、今回のような神経の痛みや炎症にも使用することができるため、違った症状に同じお薬が出ることはあります。患者さんには、病気によって使用方法や量が違ったり、続けるか頓服が適切な使用方法が必要で、どちらも正しい使用方法であることを伝えました。

薬についての不安、解消して飲みたいものですね。



中央薬局では、災害や新興感染症の発生時など、行政や地域の医療機関と連携して、医薬品供給や衛生管理に係る対応ができる体制を確保するよう努めています。